

里山広葉樹の デジタルデータ化による 新たな流通システムの開拓

第10回プラチナ大賞

株式会社Andeco 代表 早川慶朗

開発：Aroboeta合同会社 神戸大学 信州大学

協力：北海道科学大学 シェアウッズ カリモク家具(株)

こうべ六甲山私有林研究会 ひだか南森林組合 (一社) 創造再生研究所



北海道 襟裳町 広葉樹林

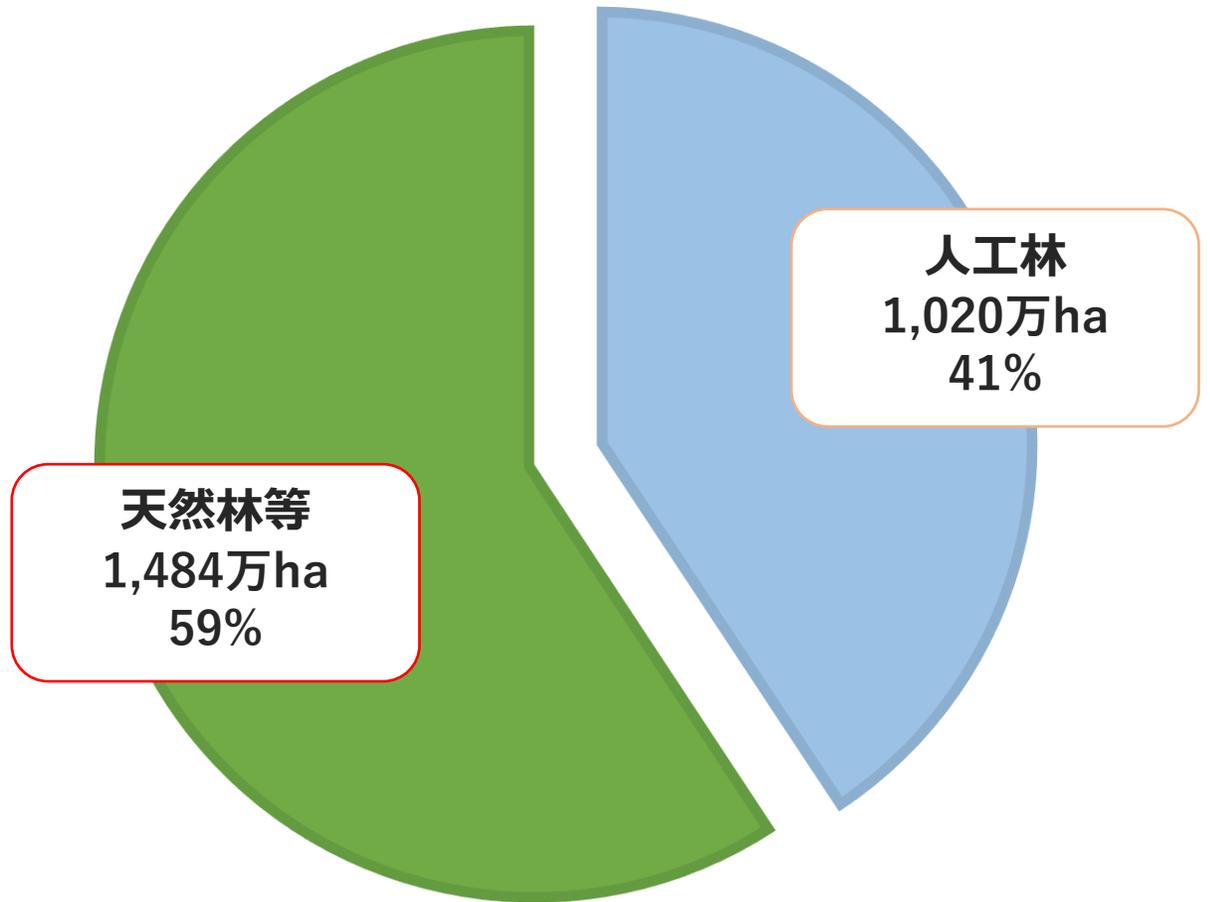


天然林≠里山広葉樹林

天然林等の大部分は、
かつて人が利用していた
里山広葉樹二次林
(原生林は極わずか)

薪炭材としての燃料利用から
エネルギー革命で、放置林化

これまでは、産業化されている
人工林への支援が中心であり、
里山広葉樹林の諸課題解決への
アプローチは数少ない



里山広葉樹林の諸課題 山側

1. 太径化しつつあるが
需給マッチング不足で、
安易にチップ化薪化されやすい
2. 太径化と高樹齢化することで、
虫害が広がると激甚化しやすい
3. 伐採・利用が行われないことで、
里山林の新陳代謝が不足



ナラ枯れ被害の例 大山（出典 神戸大 黒田先生資料）



島根県匹見町の薪のストックヤードと薪用に玉切りされた太径の栗材

1. 歩留まりが悪く乾燥原板で買いたい
2. 円安・インフレで、これまで通り世界から購買できるか不透明
3. 将来的な輸出時に木材の認証証明が必須になる際に対応できない
例：EUDRなどの規制強化

日本経済新聞 21年11月25日報道記事

広葉樹材が2年で3割上昇 コロナで伐採減、木製家具高く 「室内に自然を」人気に拍車

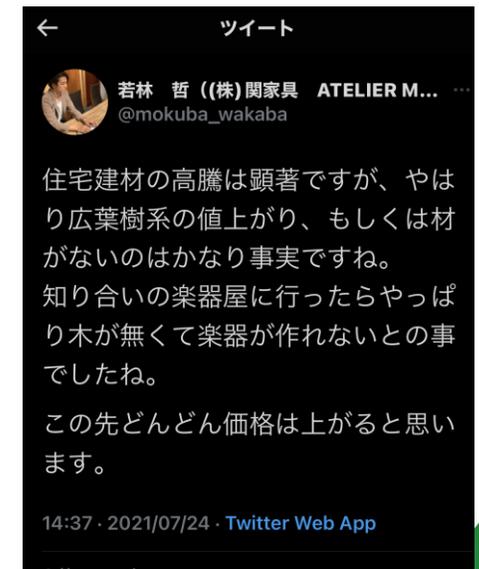
価格は語る [+フォローする](#)

2021年11月25日 2:00 [有料会員限定]

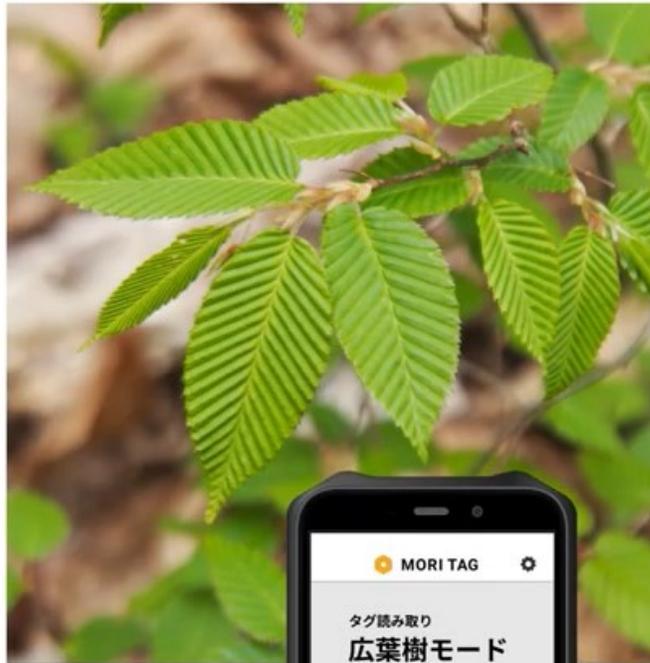
保存

共有アイコン

国内の家具メーカーで、椅子やテーブルなど木製家具の値上げが相次いでいる。木材相場を巡っては住宅建材に使う針葉樹材の高騰「ウッドショック」が騒ぎになっているが、家具に使う広葉樹も値動きは異なりながらも高値だ。新型コロナウイルス禍に伴う供給事情や需要が絡み合い、家具相場を押し上げている。



課題解決へのアプローチ



MORI TAG

森のカタログの作り方と使い方

広葉樹林の立木カタログづくり

1. ボラティリティの高い広葉樹林の立木カタログをつくる
2. 伐る前に、売り手と買い手をマッチング
3. 家具や楽器向けに、立木・原木を高く売る

チップ材 1万円/m³～

家具用材 5万～20万円/m³～

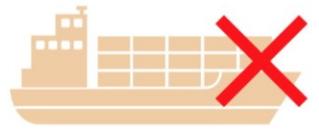
デジタル管理の仕組み



都市林業
国内資源の
無駄使い



一括輸入
輸入材が高騰し
木材が手に入らない



電子タグのデータの受け渡しの仕組み

伐採前の管理

立木を電子タグで管理する森のデジタルカタログ



タグに情報登録
サイズ等、樹木情報入力
樹木の写真・ストーリー
を自由に記載




伐採

伐採後の管理

製品までトレーサビリティ



丸太に子タグ追加
(継承)

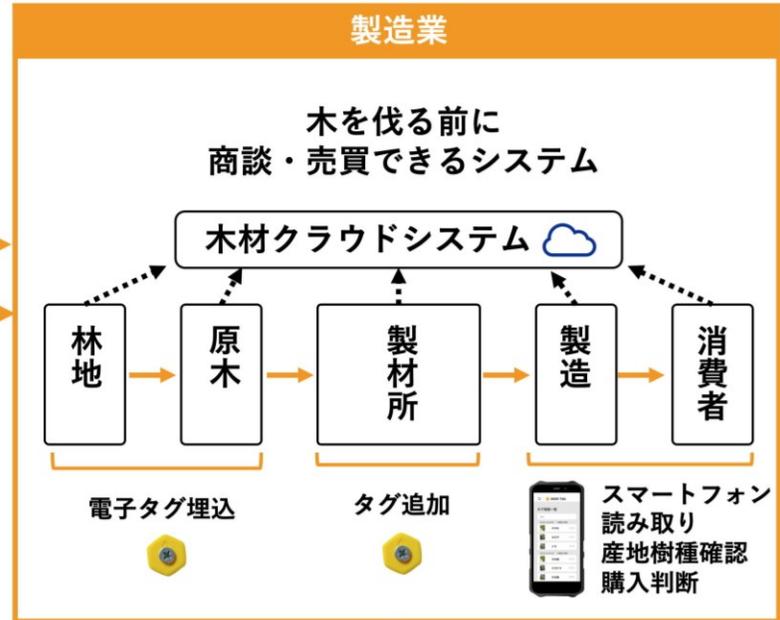


QRコードに変換



商談・売買

納品



最終製品の販売

消費者

家具や楽器 など

付加価値：
木材の由来や
育った森林の情報を知ることができる



サービスの現在地と今後について

- ▼β版システムで草の根活動的に、調査希望地を調査し、家具メーカーらとマッチングし、伐採から家具利用を実施
→22年末～23年春にかけて、システム上でマッチングをめざす

今後

- ▼大手木材利用メーカーと、海外利用に向けて協議スタート
- ▼データ化を森林環境譲与税や、カーボンプレジットの仕組みと組合せた事業モデルづくりへの取組

次の展開へ向けて

この取組に協力してくださる自治体、事業会社、資本家を募集しています。

▼山側 森林所有者、自治体

▼産業側 製材業、家具メーカー、楽器メーカー

